

市ホームページには、
たくさんの写真と詳しい
内容を掲載しています。



パネリストの活発な意見に真剣に耳を傾ける参加者

— 三角にぎわいづくりシンポジウム —
官民連携で三角をリノベーション

2/26 三角駅とその周辺地域のにぎわいをつくろうと、三角防災拠点センターでシンポジウムが開かれ、約300人の市民が参加。(株)シークルーズの主催。まちづくりの専門家の基調講演などをもとに、守田憲史市長や木村敬副知事などの有識者が集まりパネルディスカッションが行われ、活発な意見が出されました。



登頂後、山頂からの眺望を楽しみながらのランチは格別

— 三角岳山開き —
景観を楽しみながら山頂を目指す

2/26 三角岳の山開きを開催。宇城市内はもちろん県内外からも登山愛好家が集まり、103人が参加しました。登山の前には三角支所で安全祈願の神事を行い、玉串を捧げて1年間の三角岳登山者の安全を祈願しました。山頂ではお楽しみ抽選会も開催。当選番号が発表される度に、参加者たちは一喜一憂していました。



調査結果を伝える松本来優さん、松出大輝さん、中川大輔さん

— 特別パネル展「つなぐ 高校生と松橋空襲」 —
松高生が写真や実物の銃弾を用いて講演

2/19 市立郷土資料館で開催された同展で、松橋高2年生3人のギャラリートークが行われ、約30人が参加。松橋空襲やその戦争遺跡の解説、調査で出会った戦争を語り継ぐ人々とのつながりなどを話しました。戦争を知らない世代の高校生が戦争を伝えることとその取り組みに、参加者から賞賛の声が上がっていました。



石田和暉さん(右)と丸山さん(中央)から小川獅子組の山口さんへ

— 工業高校の技術力を地域のために —
小川工高生が物作りで地域に貢献

2/13 小川工高で、同校3年生が制作した練習用の獅子頭を小川獅子組に贈りました。建築科の生徒が1年かけて手作業で制作。班長の丸山翼さんは「目や鼻の大きさを工夫して作りました。」と作品への思いを語りました。小川獅子組上町代表の山口孝政さん(44)は「非常に良い出来。大事に使います。」と感謝の意を述べました。



(中央)同社 前崎代表取締役、(右)社長室長 森田知美さん

— (株)前崎産業が地域貢献 —
市へ災害備蓄品を寄贈

3/6 小川町で創業して10周年を迎える(株)前崎産業の前崎国男代表取締役が、守田市長を訪問。防災行政に役立ててほしいと、非常食のカレーライス1,000食を市に寄贈しました。

今後は、小川防災拠点センターに備蓄し、災害時の市民への食糧提供や防災訓練時に使用していきます。



地域住民から譲り受けた江戸時代のひな飾り

— 季節の行事で町おこし —
「風の館 塩屋」でひな祭り

2/26 小川町の国登録有形文化財「風の館塩屋」で、運営団体の(一社)kiteがひな祭りを開催しました。訪れた人は色鮮やかなひな飾りを眺めながら特製の塩屋御膳を堪能。代表の大池早代さん(32)は「地域の人から受け継いだ大切なひな飾り。来年はより多くの人を楽しんでもらえるよう工夫したい。」と意欲を見せました。



来場者も一緒に楽しくダンス

— 公民館まつりin不知火防災拠点センター —
公民館活動の成果を披露

2/25 不知火防災拠点センターで同まつりを開催。これは、公民館活動を広く紹介するために開催したもの。本年度は18団体が参加し、当日は300人を超える人でにぎわいました。来場者からは「太極拳やレクダンス、みんなで体を動かして楽しかった。」「折り紙に興味を持ちました。」などの感想が聞かれました。



用意したクッキー約500袋はほぼ完売

— 地域の人と協力して米作り —
米粉クッキーを保護者に販売

2/22 松橋小5年生が地元の菓子製造販売業者と協力し、自分たちで育てた米で米粉のクッキーを作り、体育館で保護者に販売しました。これは、総合的な学習の時間で実施した米作り学習の成果発表として行ったもの。購入した岡村すみえさん(51)は「子どもたちにとって貴重な経験になったと思います。」と話していました。